

# 輸送方法の改善による若松経営の安定化

鹿行農林事務所経営・普及部門

若松の需要は、年末年始の門松や正月飾りが中心となるため、10～12月に収穫、調製、出荷作業が集中し、この期間の省力化が課題となっています。当部門では、出荷作業の省力化と荷傷み抑制などの効果が高いポストパレットの導入を推進しました。導入効果の実証、結果の周知及び導入を進める上での課題を整理して生産者へ説明したことで、ポストパレットの導入率は向上し、繁忙期の出荷労力の削減につなげることができました。

## ポストパレットの導入効果を実証

結束した若松をトラックに1束ずつ人力で積み込み・荷下ろしする慣行の作業と、結束した若松をポストパレットに積み、フォークリフトで積み込み（写真1）・荷下ろしする作業の時間を比較しました。その結果、ポストパレットを使用することで、積み込み時間を約1/40に削減でき、荷下ろし時間も大幅に削減できることを実証しました（表1）。また、輸送に伴う荷傷みを軽減できることも確認し、これらの結果を資料にまとめ、生産者への巡回などで周知しました。



写真1  
ポストパレットの  
積み込みの様子

表1 積み込み・荷下ろし時間の比較（分/千束）

作業	輸送方法	作業時間 (分)
	慣行	684
積み込み	ポストパレット	16
	慣行	382
荷下ろし	ポストパレット	13



写真2  
組立式で荷崩れしに  
くいポストパレット  
の外観



写真3  
3生産組織による市  
場要望内容に関する  
協議

## 産地が一体となった取組

省力効果が高く生産者と市場側双方にとって大きなメリットのあるポストパレット（写真2）ですが、①市場側にフォークリフトが無く受け入れが困難な場合がある、②市場からの返却費用を生産者が負担している、ことが新たな課題となりました。

このため、当部門がコーディネートし、管内の複数生産組織の連名で取引市場に対してポストパレット受入体制の整備や返却費用の一部負担を要望しました（写真3）。

## 成 果

これらの取組により、市場側の理解が得られ、ポストパレット受け入れ市場数やパレット返却費用を負担する市場が増えました（表2）。

市場の受入体制や流通環境が徐々に整ってきたことで、ポストパレットの導入率は3年間で約2倍（図1）となり、繁忙期の出荷労力が削減されました。

当部門では、今後も削減された労力を活用した若松の出荷量の確保と経費の削減を推進し、経営体の所得向上を支援していきます。

表2 ポストパレットに関する市場数の推移

	H30年度	R 2年度
受け入れ市場数	20	25
返却費用を負担する市場数	1	15

※管内のある大規模経営体が出荷する25市場のうち

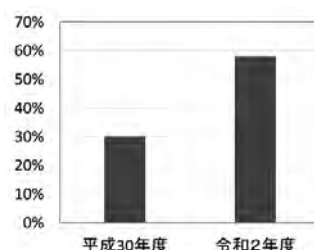


図1  
重点指導対象者の  
ポストパレット導入率  
の推移